

答え合わせ・解説

問1	答え 3 暖流	黒潮は非常に勢いが強く、温かい水を運ぶ暖流の代表です。この暖流は、日本列島の南側に沿って北上しながら、周辺の気候や生態系に大きな影響を与えています。水温が高いため、多くの魚が回遊し、豊かな海を作り出しています。
問2	答え 2 津波	津波は海面全体が押し上げられる現象であり、通常の風による波とは異なり、到達すると非常に高い破壊力を持って陸地に押し寄せます。リアス海岸のような湾の入り口が狭い地形では、入り口でせき止められた波が湾内で急激に高くなる性質があり、特に甚大な被害が出る恐れがあります。
問3	答え 3 集落	この「扇端」と呼ばれる地点は、古くから水を得やすく、集落が形成される中心地となってきました。水利条件が良いことから、生活だけでなく稲作などの農業にも適した場所として、地域の発展の核となりました。
問4	答え 1 地震	海底で地震が起きると、海底面が急激に隆起したり沈降したりして海面を押し上げ、波となって周囲に広がります。これが津波です。津波は通常の波と異なり、波長が非常に長く、海底全体が動くため、沿岸に到達すると巨大な破壊力を持つようになります。
問5	答え 2 果樹園	この特性を利用して、日本では古くから傾斜地や扇状地で果樹栽培が盛んです。果物の中でも特に水はけの良い土壌を好む品種が、扇状地で質の高い収穫を上げています。
問6	答え 2 プレート	プレート同士がぶつかったり、一方の下へ沈み込んだりする境界部分では、大きな力が発生します。日本列島はこのプレートの境界が複雑に重なる場所にあり、沈み込むプレートに引きずられたり、跳ね返ったりする力が地震の主な原因となっています。この動きによって地殻のひずみが溜まり、活断層が形成されることもあります。
問7	答え 2 防潮堤	防潮堤は、海からの浸水を防ぐための壁状の構造物です。津波の勢いを弱め、到達する時間を遅らせる効果を期待して設置されます。近年では、より高い津波にも耐えられるよう、二重構造にしたり、防潮林と組み合わせたりする工夫も行われています。
問8	答え 1 浜松市	天竜川が運んできた土砂が、河口付近で堆積して形成された三角州が浜松市周辺には広がっています。三角州は平坦で水が得やすいため、古くから稲作を中心とした農業の適地として利用されてきました。
問9	答え 4 潮目	この境界部分を潮目と呼びます。潮目では、北からの栄養分を豊富に含んだ水と、南からの暖かい水が混ざり合い、プランクトンが爆発的に発生します。これを求めて多くの魚が集まるため、非常に豊かな漁場が形成されます。
問10	答え 4 北アルプス	日本アルプスは、北部の「飛騨山脈（北アルプス）」、中部の「木曾山脈（中央アルプス）」、南部の「赤石山脈（南アルプス）」という3つの山脈で構成されています。それぞれ3000メートル級の高峰が連なり、日本を代表する山岳景観を形成しています。
問11	答え 1 養殖業	この穏やかな環境と、山から栄養分が流れ込みやすい地形条件を生かし、カキ、ホタテ、ワカメなどの養殖業が盛んに行われています。また、水深が深く海水が循環しやすい場所も多いため、魚介類の育成に適しています。
問12	答え 2 富士山	富士山は日本で最も高い山であり、その美しい円錐状の形から日本の象徴として知られています。地質学的には活火山に分類され、フォッサマグナの構造と関連して形成された山々の中で最大の規模を誇ります。
問13	答え 4 浸水想定区域	浸水想定区域は、河川が氾濫した場合に、どれくらいの深さまで水が浸かる可能性があるかをシミュレーションして示した範囲です。ハザードマップには、浸水深（水がどれくらいの深さになるか）や浸水が継続する時間などが記載されています。この区域を知ることによって、大雨の際の避難行動を早める判断に役立てることが出来ます。
問14	答え 2 氷河	氷河は長期間かけて山を削り取り、カールと呼ばれる円状の窪地や、鋭い尾根を作り出しました。日本アルプスで見られるこれらの地形は、当時の寒冷な気候環境を物語る貴重な遺産です。
問15	答え 3 海霧	冷たい海の上で冷やされた空気が霧となり、沿岸へ流れ込む現象を海霧と呼びます。この霧が長時間かかると、日照不足を引き起こし、北海道の太平洋側の農作物の成長を妨げ、冷害の原因となることがあります。